

# 菅生神社の歴史

(出典：岡崎市史 第七巻)

年号	西暦	主なできごと
人皇十二代 (景行天皇)	不詳	日本武尊東夷征伐として当地ご通過の砌、高石にて矢を作り給い、一矢を小川に吹き流し給ふ。その砌、矢を御霊代として伊勢大神を鎮祭し、吹矢大明神と称す。
神亀 2 年	725	山城国より稻荷大明神を勧請し、以来稻荷社と云えり、その後亀井戸の地に遷座す。
天平宝字元年 11 月 15 日	757	初めて額田郡宮崎の地に、播磨国より祇園牛頭天王を勧請せし。
元暦元年	1184	神殿焼失
文治元年 6 月 15 日	1185	神殿再興
明德 2 年 11 月 15 日	1391	松平親氏祈願修造
永正 14 年 7 月	1517	洪水の節、神殿が岡崎高石の地に流着す。これを菅生天王と云えり。
永正 15 年 12 月 2 日	1518	額田郡中山庄土村の住人 天野掃部介正家、及び額田郡麻生村の住人 天野彌九郎隆正、本社を造立。
大永 3 年 6 月	1523	岡崎城主 松平彈正左衛門信貞、境内に十二社を勧請す。
永禄 9 年 2 月 12 日	1566	徳川家康 二十五の御厄除御開運為御祈願 社殿を再建する。
天正 19 年	1591	田中吉政の時 社領を没収し、十二社を破却する。
慶長 15 年正月 24 日	1610	菅生川洪水にて本社流れ、稻荷社の境内に着す。依て稻荷社と合併した。
元和 8 年	1622	奥州岩城城主 内藤左馬助政長、祖先の産土神の故を以て社殿を造営
寛永 15 年 11 月 15 日	1638	本多伊勢守忠利本殿を修理し、石鳥居を造立した。その後本社を移転して岡崎の城主代々の崇敬あり。毎年 12 月御供米一俵を献じ、毎月神子神楽を奉納したと云う。
宝暦 3 年 12 月	1753	水野織部正忠任、本殿を修復
明和 5 年 5 月	1768	松平周防守康福、修理を加えらるる。
寛政 11 年 6 月	1799	本多中務大輔忠顕、雨覆を造立。
明治元年	1868	菅生神社と改称
明治 5 年 10 月 12 日	1872	村社に列せらるる。
明治 9 年 5 月	1876	岡崎公園内龍城神社境内に移転
明治 23 年 12 月	1890	元の地に戻る。
明治 34 年 5 月 22 日	1901	現在の地に遷座す。
明治 35 年	1902	拝殿を改築し、9 月 22 日上棟式を行う。
明治 40 年 10 月 26 日	1907	神饌弊帛料供進神社に指定さるる。
明治 42 年 10 月 18 日	1909	本殿渡殿の再建着手
明治 43 年 7 月 1 日	1910	本殿渡殿竣工、7 月 17 日上棟式、18 日遷宮、祭神は須佐之男命、天照皇大神、豊受姫命の三座

建造物には神殿、渡殿、拝殿、権殿、社務所、神楽殿、神饌所、廊下、休憩所、籠屋、玉垣、高麗狗 (明治 26 年 1 月建立)、石灯笼、石鳥居 (二基あり寛永 15 年と大正 4 年建立)、手洗鉢 (二基あり、元禄 2 年 11 月と明治 43 年 7 月建立)、大茶釜 (大正 5 年 7 月献)、幟立、社標 (二基、明治 38 年 6 月と大正 8 年 10 月)

例祭は 7 月 19 日と 20 日 (もとは旧暦 6 月 15 日と 16 日)、毎年 7 月 19 日の夜は鉦船と手筒花火、金魚花火。産子：藩中町方十一ヶ町 (横町、連尺町上之切、連尺町下之切、籠田町、六地藏町、唐澤町、祐金町、専福寺領、志磨町、十王町、菅生村)